



投稿ください。市民の皆さんの意見交換の場がこの市民談話室です。テーマは自由です。あなたの意見を気軽に寄せてください。採用文には薄謝を差し上げます。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一三三五 白根市役所企画課広報広聴係です。

家庭教育として

子供は自然の愛情のもとで

長崎キイさん (庚・農業・55歳)

私は現在、小学一年生と四年生の二人の孫を持って、農村のあわただしい生活の中で家庭管理に明け暮れています。家庭の教育として、あまりギスギスしない穏やかな心で子供たちに接することが大切であり、自然の愛情の下で育てていくことを願っています。

また、愛情の体験として家事

非行の芽を摘む

子供に仕事を分担させよう

後藤 芳さん (養鶏新田・無職・65歳)

皆さんの家庭では、子供に一定の仕事をさせておられるでしょうか。最近、ほとんど子供に仕事をさせない家庭が増えていくのではないのでしょうか。

朝起きたら玄関を掃くとか、廊下をふくとか、庭を掃くとか、家畜の世話をするとか、学校か

皆さんの家庭では、子供に一定の仕事をさせておられるでしょうか。最近、ほとんど子供に仕事をさせない家庭が増えていくのではないのでしょうか。

朝起きたら玄関を掃くとか、廊下をふくとか、庭を掃くとか、家畜の世話をするとか、学校か



長崎キイさんと、学校から帰って家の仕事を手伝う竜也君と祐也君

ひろば

コ/ミ/ュ/ニ/テ/イ

せん。したがって、最近の子供は働くことを喜ばず、汗することを嫌う、我慢すること耐えることを知らない子に育つ。口先だけ達者で理屈は上手で反発、反抗し、欲望を通す。

近ごろ少年非行が頻発し、嘆かわしい事件が多いのも、案外幼少時代のそんなところから小さな芽が育っているのではないのでしょうか。

家族の一員として出来る範囲の仕事の分担は、ぜひとも与えたいものです。そして、働いて汗し体で覚え身につけることがいかに大事なしつけの基本になるかを考えたいものです。

学校教育に思う

現代っ子に尊敬の精神必要

武田寅治さん (蔵主・会社員・58歳)

現代っ子には、私たちの時代と違って尊敬の精神が薄くなってきたかと思えます。それというのも学校教育自体が違っているからだと思えます。

私たちの青少年時代は軍国主義の時代であって、「君には忠義」「親には孝行」というような指導でした。「これが忠孝一本となって、軍隊に入隊後はいかなる事があっても上官の命令に服従し、職場にあつては上司

の言うことを忠実に実行、家庭においては親の言うことを聞き親孝行せよ」との教育方針でもあったわけですが、現在の子供には、この点が薄くなっているように思います。

昔の人がよく言った「犬は三日飼えば三年恩を忘れぬ」という教訓があるように、ましてや人間の子である以上、学校にあつては先生、家庭にあつてはお年寄りや親、職場にあつては上司に対して、少しぐらいの尊敬の精神が必要かと考えずにいられません。また現在のままのようにならぬなら、学生が先生に対して、家庭では親に対して暴力をふるう傾向が日増しに増加していくことが、火を見るより明らかです。

このような事態を重く見るにつけ、私の考えとしては、現在の教育の中に昔の教科書にあって「修身」という科目を取り入れて教育の根本を変える必要性があるかと思えます。そうすれば、多少なりとも尊敬の精神が生まれてくるのではないのでしょうか。

俳句



どの顔も陽に焼け二学期始め
浜茶屋は残る暑さを賑わいり
山並の粧いも秋の気配かな
日の暮れて尚朝の鳴き止まず
大根時く人に声かけ出勤す
秋めくや亡父の着物の似合う歳
朝顔や左に巻いて朝の花
秋祭り日焼けし孫のよばれて来

坪川桐太郎
針貝 静男
中山 義英
石田 豊実
田中 昭一
眞保 清三
牛腸 七郎
佐野タケ子

川柳

読みにくい孫の便りや空澄める
秋立ちて翁一人の畑忙し
松籟の涼しキャンブに灯の入り
神苑を菊の香りに包みたり
髪染めて厨に立てばちろろ鳴く
木せいさびしき花や庭香る

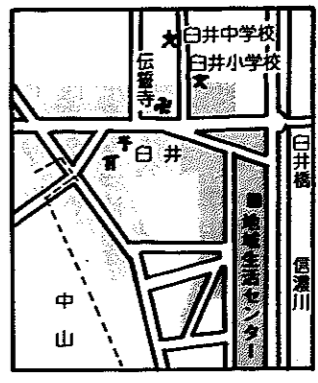
古ダンスの虫食い跡に亡母がいる
香水の匂う扇子に嫉妬する
菊一技作者の精進うけて咲き
好奇心だけで覗いた事故現場
放浪の足がもつれる無人駅
親鸞の奇蹟生かした観光地

桑原 平一
佐藤勇一郎
須戸 義夫
大旗 豊治
小林キミイ
玉木 長吉
田村 恒夫
佐藤トミノ
竹石 甚五
織田 セツ
今井 七郎
岡村 清

短歌

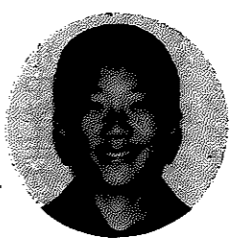
気付かれぬ善意に見せ場などいらぬ
花笠の列に賑う祭の灯
菊食べるのかと江戸ッ子聞き返し
狂い咲く秋の桜へ洩らす愚痴
蟻の眼に象の巨体がおさまらず
身売りする菊はハウスで適齢期
ジャンボ企業支えたケシ粒ほどの自負
束の間の夢はジャンボな宝クジ
幸知らぬ菊人形の薄き胸
一輪で百花を制す菊の華
咲き初めし菊ひらひらとまばらなり
明日待つ今宵門燈を消す

本間 吾朗
山岡 フミ
米野 光雄
高橋祐四雄
長井 徳市
後藤まさの
吉川 末吉
吉川 彰
西条 ムラ
中村 尚治
中村 京



ぼくたちわたしたちの部落・町内会

白井
世帯数 140世帯
人口 598人(男272人 女326人)
(10月1日現在)



白井小学校6年 森田 淳君

ぼくたちの部落では、毎年八月二十五日に「仮そう盆踊り大会」という行事をやります。

この行事の内容は、それぞれが自分のすきなかつこうをして、午後七時三十分から九時三十分まで盆踊りをしながら小学校のグラウンドを何しゅうもします。そして一番よかった人にはすばらしい賞品をやり、そのほかの人にもいろいろの賞品をやります。おどっている人も見ている人も、とってもに

ぎやかでたのしそうです。

ちなみにぼくは、三、四年のときは女のかつこうをして一等、準優勝でした。五年のときは「パカ」になって出て、一等をとり、「おしん」で出た今年も一等でした。